

館の使命	千葉県立関宿城博物館は、「河川とそれにかかわる産業」「関宿藩と関宿」をテーマに川と人々のかかわりについての歴史、産業、文化、自然等に関する資料の収集・保管・調査研究と情報の発信を行い、県民の生涯学習の場を提供する。
------	---

評価項目	7展示②企画展示（入場料の変更が必要な展示） 企画展「海路から広がったやきもの－近世以降の関東－」
項目概要	使命に則した事業であるか

評価項目	視点例	目標・指標	実施内容	結果・成果	今後の課題	所見・指摘事項
①事業目的	・本事業の目的、企画の狙い等は、館の使命及び県民ニーズに照らし適切に設定されているか。	江戸時代、東海以西で生産された焼物が海や川を利用して関東に運ばれてきたことを知ってもらおう。	弁才船（海船）と高瀬船（川船）の模型や、梱包されている焼物を展示し、江戸時代に焼物が船で輸送されていたことを意識付けた。	アンケート調査より、「焼物の歴史だけでなく、西の方から海を伝わって入ってきたことが分かって面白いと思いました」「江戸から水運で運ばれた陶器が多くあったことを知り、興味深かったです」と回答している入場者がおり、焼物をとおして江戸時代の海運及び水運を理解してもらったことができた。	歴史系博物館として、使命に基づき舟運や治水をテーマに企画展を開催してきたが、テーマが限定的になってきている。	【戸枝】 ・過去の企画展示を見直したらいかがでしょうか。開館当初の企画展では研究されなかったことや、その後の資料収集などで、新たな展開ができる可能性もあります。他関連館の企画展記録なども参考にしたらどうでしょうか。 【黒田】 ・舟運・治水というテーマを別の方向から捉えなおすことも必要かと思われる。舟運・治水というテーマは限定的だが、地理的には千葉県に限定されず大きな広がりを見いだせるし、国や時代も越えてさまざまな研究範囲の設定が可能な分野だと個人的には考える。そういう意味では、今回の企画展そのものが舟運というテーマの新しい切り口になっているように感じた。今後の企画の広がりの可能性を見い出せた気がする。
		幅広い年齢層の方に楽しんでもらおう。	展示への導入として、幼児や小学生を対象に「やきもの屋」をイメージした塗り絵コーナーをエントランスホールに設置し、子どもたちが遊びをとおして焼物に対する興味・関心を持つ動機付けとなるようにした。	塗り絵コーナーでは、子どもたちが皿や碗などの下絵に色を塗り、それを展示ボードに貼って楽しんでた。また、展示室では小学生の女の子が「お皿がきれいでした」とアンケートに感想を述べていた。	エントランスホールでの塗り絵コーナーから2階の企画展示会場へ子どもたちを誘導する工夫が必要である。	【戸枝】 ・塗り絵コーナー（陶磁器の絵付け）は、良いアイデアだと思います。企画展示室への誘導は、当時どのような絵柄が好まれ、流行していたのか。産地の特徴なのか、地域の好みなのか、時代性なのかを解説すると興味が湧いたのではないのでしょうか。 【黒田】 ・展示室内のクイズも含めて、子ども向けのアピールがうまく作用しているさまが見て取れた。

		県民ニーズを反映している。	昨年度上半期に実施した来館者アンケートの結果、来館目的の一番が「川に関わる歴史と文化を学ぶため」(27.1%)であったことから、今年度の企画展は焼物とおして、江戸時代における舟運と人々の関係が密接であることを理解してもらう展示にした。	今回のアンケート調査より、「川で流通している歴史に興味があり、焼物も船で入り、内陸に入ったことが分かった」と回答している入場者がおり、県民のニーズを反映した企画になったと思う。	入場者の満足度が98.5%と高評価だったので、県民のニーズに反映していたと思うが、焼物と関宿との関連性においては展示内容が弱かった。	【戸枝】 ・博物館の使命、設置目的に合った展示テーマであると思います。当時の物流において、舟運の果たした役割について展示できたと思います。 【黒田】 ・わずかながらの満足しなかった人たちについて、目をつぶらず原因を分析して今後活かしてほしい。
②事業内容	・目的・ねらいを正しく反映する工夫がなされているか。	1階の常設展示室にある企画展関連資料を有効的に活用している。	企画展関連資料の前に、「企画展関連展示」と明記した看板を立て、企画展に関係する内容の解説文を掲示した。	企画展関連資料として、船頭たちや米俵が船内に設置されている高瀬船の模型を紹介することによって、大きな船で、たくさん物資が輸送されていたことをイメージさせることができた。また、江戸時代における関東東部の鳥瞰図では、高瀬船の航路を視覚的に理解させることができた。	1階常設展示室の企画展関連資料が、企画展のどの内容に関連しているかを気づかない入場者が多かった。	【戸枝】 ・常設展示が企画展示のどのコーナーに関連しているか(またその逆も)の説明は、文字表示+写真・イラストによる表示が有効だと思います。ただし、スタンドの多様は危険ですが、高瀬船の船頭、積荷等は写真(やや大きく)で企画展示に掲出されると常設、企画ともに関連される効果があったのではないかと思います。 【黒田】 ・関連展示を説明する看板の内容と、看板のレイアウト・デザインは工夫の余地があったように思う。また、企画展が目的で入場した人々を、企画展示から常設展示へ誘導するサインをもう少し目立つ形で設置してもよかった。

<p>展示手法等で工夫が見られる。</p>	<p>・章や節ごとに解説パネルの様式を統一し、さらに文字の種類や大きさなどにも基準を設けて、見やすい展示を心がけた。また、読みがむずかしい漢字にはルビを振るようにした。</p> <p>・実物資料に添えて、それらを使っている様子を描いた浮世絵や復元模型を展示し、当時の暮らしの中で、焼物がどのように使われているかをイメージできるようにした。</p>	<p>アンケート調査より、「パネルが読みやすく、分かりやすい」「パネルが見やすく、単元ごとにメリハリがあり、分かりやすかった」と回答しており、解説パネルを見やすいように工夫した成果だと思われる。また、展示手法では入場者から「実物の陶磁器を分かりやすく並べていたので理解できた」「庶民の暮らしの中で使われる陶磁器を、普段用とハレの日用とに分けて展示し、そこで出される食事内容も見せてくれて、とても興味深く見られました」</p> <p>「ケースの背面もバランス良く、実物資料と調和している印象です」と感想が寄せられており、高い評価を得た。</p>	<p>今回は実物資料として焼物を多く展示したが、幅広い年齢層の方に理解してもらうために焼物の使用方法も写真や絵で表示すべきだった。</p>	<p>【戸枝】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解説パネルは読みやすく、分かりやすい。焼き物の使用（利用）状況も、絵画や再現模型等で示しており、理解しやすい。 ・生活雑器を説明するためには、ある程度の量が必要だと思います。生活の中に陶磁器が不可欠であったことが分かります。 ・子ども向け（やさしい解説）対応は、数年前に実施され、以後継続されている。エントランスの塗り絵やろくろ子どもは興味を持つでしょう。 ・子どもや一般の人には、名称、形からは、使用方法が分からないものもありました。現代語訳があると、興味や注目度も上がると思います。使用状況が描かれている資料があると思います。 ・展示図録もわかりやすい。 <p>【黒田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネルや配色に統一感があり、情報や展示資料が多い割にとっても見やすい展示だった。浮世絵や模型に表現された使用事例と実物の焼き物との組み合わせ展示はとても分かり易かった。写真複製の浮世絵のなかで、描かれた焼き物がどこにあるかを強調する矢印等があったらもっと見やすかったと感じた。燈明皿やたばこ盆など焼き物の使用方法を知らないのは若い年齢層なので、子ども向けのクイズの隣などにパネルで説明があるとよかった。
-----------------------	---	---	---	---

	<p>焼物に関連した教育普及活動が行われている。</p>	<p>・外部講師による歴史講座の講演、益子陶芸美術館と成井窯作業場を見学する野外講座を実施した。</p> <p>・エントランスホールを会場にして、ワークショップ「やきものの世界を知ろう」で、ロク口を使った作陶実演（2回）と模様つけ体験（2回）を実施した。</p>	<p>・参加者は歴史講座が22人（定員50人）、野外講座が38人（定員40人）であった。歴史講座は広報活動の遅れもあり、参加者数が目標とした定員の8割に達しなかった。</p> <p>・ワークショップにおいては、ロク口を使った作陶実演の見学者が165人、模様つけ体験の参加者が34人であった。</p>	<p>—</p>	<p>【戸枝】</p> <p>・関連普及事業（歴史講座）については、周辺地域のイベント等の情報も入手してください。野外講座では、展示効果があったものと思います。</p> <p>【黒田】</p> <p>・企画講座ごとに集客率に偏りが見られるため、企画展関連事業の効果的な広報を計画的に実施できるような体制作りが必要と思われる。</p>
	<p>多くの年齢層の方が理解できるような展示内容になっている。</p>	<p>武士と庶民が使用していた焼物の違いや、様々な職業で使われていた焼物が分かるように多くの実物資料を展示した。また、時代を追ってストーリー性のある章立てにした。</p>	<p>アンケート調査より、「権力者側と庶民側とで利用価値が違うことが分かった（40歳代の男性）」「焼物の歴史と流通が良く分かりました（50歳代の女性）」「時代の流れがとても良く分かりました（60歳代の女性）」と感想を寄せており、多くの年齢層から高い評価を得た。</p>	<p>アンケート調査では子どもたちが展示内容に理解できなかったかを把握することができなかつたので、子どもたちを対象に対面調査などで実態を把握する必要があつた。</p>	<p>【戸枝】</p> <p>・親子連れの見学者の観察（親が子どもへの説明の仕方など）。子どもの見学状況の観察も必要と思います（動線や滞留時間等）</p> <p>【黒田】</p> <p>・子どもの意見を聞き取ることも今後行ってほしい。</p>
③満足度	<p>・入場者は、満足してくれたか。</p>	<p>アンケート調査での「非常に良かった」「良かった」の回答が80%以上。</p>	<p>「非常に良かった」「良かった」の回答が98.5%である。</p>	<p>—</p>	<p>【戸枝】</p> <p>・属性分析を今後の博物館活動に生かすようにしてください。</p>
	<p>入場者が多い。</p> <p>目標人数：15,000人</p> <p>目標有料入場者数：</p>	<p>—</p>	<p>入場者数：13,665人（目標達成率：91.1%）</p> <p>有料入場者数：2,075人（目標達成率：94.3%）</p> <p>></p>	<p>—</p>	<p>【黒田】</p> <p>・目標に達することができなかった要因をしっかりと分析し、今後にいかしてほしい。</p>
	<p>入場料収入が多い。</p> <p>目標値：650,000円</p>	<p>—</p>	<p>入場料収入：603,220円（目標達成率：92.8%）</p>	<p>—</p>	<p>—</p>

④運営	・関係団体との協働体制が築けたか。	集客率を上げるために、親子連れの方にも楽しんでもらう。	展示会場では通常の解説パネルのほかに、小学生向けの解説パネルを要所に設置したり、展示ボードに簡単なクイズを掲示した。また、エントランスホールでは企画展に関連する塗り絵コーナーを設置し、塗り絵を「やきもの屋」の棚に模した展示ボードに貼ることで、幼児や小学生が楽しめるように工夫した。	幼児から中学生までの入場者数が2,291人で、昨年度より146人減少している。	—	【黒田】 ・子どもの意見はもちろん、子ども連れの親の意見も把握・分析できるようにし、今後活かしてほしい。
	多数の関連事業を計画・実施する。	関連事業として、歴史講座「北関東製陶地の成立と展開～笠間と益子、二大製陶地の歩み～」・野外講座「関東産のやきもの里を訪ねて」・ワークショップ「やきもの世界を知ろう」・解説会を計画し、実施した。	参加者及び見学者は歴史講座が22人（定員50人）、野外講座が38人（定員40人）、ワークショップが199人、解説会が281人であった。	—		

<p>博物館と友の会がお互いに協力し合っている。</p>	<p>博物館は友の会主催の野外講座「関東のやきもの里を訪ねて」を企画・準備し、友の会の手助けをした。一方、友の会は内覧会での受付・案内、解説会での案内を行い、博物館に協力した。</p>	<p>博物館は野外講座の企画・準備を行うとともに、当日は4人の職員が解説・誘導などで友の会に協力した。一方、友の会は内覧会で4人、解説会で4人の役員が受付・案内を行い、博物館に協力した。</p>	<p>—</p>	<p>【戸枝】 ・職員とボランティアの連携が良く、諸事業での協力関係にある。</p>
<p>ほかの教育機関等との連携・協力関係が良好である。</p>	<p>埼玉県宮代町郷土資料館・千葉県立中央博物館大利根分館・同館大多喜城分館から多くの展示資料を借用し、協力を得た。</p>	<p>埼玉県宮代町郷土資料館から初めての資料借用だったが、貸出を快く引き受けてくれ、協力関係を構築することができた。今後は、距離的に近いので継続的な交流を図り、情報交換を行っていききたい。</p>	<p>—</p>	<p>【戸枝】 ・企画展テーマに関連する資料を所蔵する館からの借用は、本館のみならず、他館の広報にもなり、また諸活動の連携や情報交換の機会ともなり、今後も継続してください。 【黒田】 ・県外の近隣歴史系博物館との連携は、今後もぜひ続けてほしい。</p>
<p>本事業のねらいや過去の広報実績を踏まえ、効果的な広報活動を行っている。</p>	<p>・昨年度策定した広報重点地域に今年度もポスター・チラシを配布した。 ・報道機関や広報関係機関向けに内覧会を実施し、新聞や広報誌などへ掲載してもらおうようにした（4社の新聞社と野田市秘書広報課が来館）。 ・NHK・FMで取り上げてもらえるよう希望を出した。</p>	<p>・アンケート調査より、ポスター・チラシを見て入場した人の割合は18%で、昨年度と同じであった。また、都県別の割合は千葉県が48%、埼玉県が31%、茨城県が10%、東京都が8%、栃木県3%で、昨年度より千葉県の比率が10%伸びている。 ・アンケート調査によると、チバテレビ・読売新聞・毎日新聞・茨城新聞で紹介され、それを見て来館した入場者がいた。また、東京新聞や千葉日報にも掲載された。 ・10/29（木）11：00からのNHK千葉放送局・FM「ひるどき情報ちば」～おすすめミュージアム～で、担当職員へのインタビュー形式で放送された。</p>	<p>—</p>	<p>【戸枝】 ・広報活動の成果があったように思います。マスコミの露出数、スペースも多かったように思います。今後も掲出媒体には、情報の提供を継続してください。チラシ、ポスターの配布も来館を期待して、配布されていると思います。配布施設のイベント期間にも注視して、配布されるとより効果が期待できます。</p>

					<p>【黒田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画内容によっては、公民館や文化センターなど、同好の士が集まるサークル活動が盛んな施設への広報も効果的だったかもしれない。また、たとえばツイッターなど新規の広報分野を開発してゆくことも、新しい来館者を増やす方法だと思うので今後も継続的に広報分野の新規開拓は行ってほしい。
	<p>回答率及び分析効率を高める工夫を凝らしたアンケート調査が実施されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・回答率を上げるため、回答をいただいた方に記念品（手製しおり）を贈呈したり、対面調査を実施した。 ・年齢層・居住地・情報源・評価・一番印象に残ったものなどを把握するアンケートになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回答率は入場者数に対して2%である。 ・対面調査は7日間で、17人実施した。 	<p>記念品をプレゼントする情報提供が遅かった。また、複数による対面調査を実施すべきだった。</p>	<p>【黒田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収率を上げる努力を今後はしてほしい。

総合評価

【戸枝】

狭い企画展示室をうまく利用している。また奥行きのある壁付ケースでは、資料が多いにもかかわらず見やすく展示に工夫がされていた。今後も見やすさ、分かりやすさを意識して展示をおこなってください。

開館20年を経過して施設の改修が必要と思われます。天井蛍光灯照明にいくつかのフリッカーが生じています。企画展示室、壁付ケースガラスにヒビが生じています。常設展示室内の写真パネルにも退色が見られます。

【黒田】

展示の内容自体はとても素晴らしく、職員の方々の工夫のおかげもありとても満足度の高いものだった。上記のとおり、親子連れや新しい来館者を呼び込む工夫や、子ども向け展示などについては、改善の余地がわずかながら残されていると感じたが、現状でも質の高い展示になっていた。今後も継続して改善を続けていってほしい。

舟運・治水というテーマを新たな切り口で捉えなおし、柔軟な企画展設定を許容できる体制が今後必要になってくるのではないかと感じた。

対応等

①事業目的

・企画展のテーマについては、様々な切り口から展示構成ができるような内容にチャレンジしようと思っている。そこで、これまで川と人との関わりを舟運や治水などの実益面から捉えてきたが、来年度は楽しみや癒しという精神面からの恩恵に焦点を当て、川の重要性を伝えるテーマを企画している。

・エントランスホールの塗り絵コーナーから企画展示室へ子どもたちを誘導する工夫については、塗り絵という特長を生かし、色彩や絵柄に注目して展示室の実物資料等を見てみたくなるような問いかけなどをしていきたい。

②事業内容

・常設展と企画展との関連性や補足資料の存在について、もっと来館者に気付き、理解してもらうために、企画展関連資料の説明内容をもう少し企画展の内容と結びつけて記載するとともに、常設展示室から企画展示室へ、又は企画展示室から常設展示室へ誘導するようなサインを大きく表示したいと思う。

③満足度

・入場者数と入場料が目標に達しなかったことについては、アンケート結果を分析するとともに、これまでの企画展の実績などと比較して要因を探り、集客率のアップに繋げていきたいと思う。

④運営

・アンケートの回収率を上げるために、入場者の多い土曜日や日曜日に対面調査を複数の職員で実施したり、受付でアンケート用紙を配布するなどの工夫をしていきたい。

総合評価

・施設の改修については、適宜、計画的に更新を考えていきたい。なお、退色の見られる写真パネルは作り直して取り替えた。今後も、写真パネルなどの状態には注意していきたいと思う。

・親子連れや新しい来館者の呼び込みについては、現在おこなっている広報活動に加え、企画展の内容に関係する地域の広報や新たな広報媒体の開拓を模索していきたいと思う。

・子ども向けの展示については、当館のマスコットである「かっぴー」を案内役として、主な展示資料の脇に「問いかけ」や「独り言」を記載した吹き出しパネルを設置するなどの工夫をしたいと思う。